

別紙

令和7年度 パブリック・コメント手続 実施結果票

計画・条例等名称	牛深港周辺整備事業 総合交流施設等基本計画(案)
実施期間	令和7年9月1日(月)から令和7年9月30日(火)まで
担当部署	牛深支所 総務振興課 総務係
連絡先	TEL 0969-73-2111
	FAX 0969-72-4006
	E-mail ushisoumu@city.amakusa.lg.jp

結果の概要	
意見者数	3人
意見の件数	9件
反映件数	0件

NO	該当箇所	意見の概要	市の考え方	取扱い
1	R53 総合交流施設の面積規模	○総合交流施設内の設備について 牛深ハイヤ節の歴史を知る展示・図書コーナー、子どもの遊び場、地域を一望できるカフェを設けます。これにより、観光と日常利用の双方を兼ね備えた「多世代の居場所」を目指す。加えて、周辺には空き家を活用した宿泊施設や飲食店、漁港跡をリノベーションしたイベントスペース、子どものための屋外遊具やランニングコース等を整備する。	総合交流施設等の機能については、地域住民を対象とした学び・交流を促進する“サードプレイス”としての役割を持たせた整備に取り組むこととしています。また、エリア内では民間事業者が進出しやすいルール整備に取り組みます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	記載済
2	R37 市街地の可能性を伸ばすリノベーションと再生	○空き家をリノベーションして、宿泊施設を作りたい。 ・食事は牛深の魚を堪能できるもの ・海を見渡せる。窓や扉を開けたら目の前が海など ・通年営業でなく、週末や繁盛期に営業することで経費を節約	空き家・空き店舗の利活用については、既存の建物をリノベーションする取り組みに対して様々な施策を通じて支援を行って行きたいと考えております。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	記載済
3	P26 外国人労働者の受け入れと地域の共生	○交流イベントを行いたい。 ・外国人労働者の孤立化 ・高齢者 の方々に牛深の食文化を学んでもらい一緒に食卓を囲むイベントを行いたい。	外国人労働者の受け入れと地域の共生については、近年増加している外国人労働者も地域住民の一人として考えており、ご意見にありますとおり交流イベント等の実施が可能なエリア整備に取り組めます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	記載済

NO	該当箇所	意見の概要	市の考え方	取扱い
4	P35 交流人口を増やす仕組みづくり	○牛深の魅力である釣りを広めたい ・釣り客を増やし交流人口を増やしたい。 ・釣り道具を貸し出しすることで地域ビジネスの循環につながると思います。	交流人口を増やす仕組みづくりについては、ご意見にありますとおり、釣りをはじめ牛深らしい体験型観光の取り組みを推進します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	記載済
5	P35 交流人口を増やす仕組みづくり	○不要となった鉄道車両を観光用の漁礁として設置 県のパブリックコメントでも同意見を提出済みであるが、グラスボートがよく荒天で運行中止になったり、牛深港湾内だけの航行になることが多いため、数少ない観光資源が有効活用されていない。 JR九州をはじめとする九州内鉄道事業者に広く呼びかけ、他の産業に支障のない海底に不要となった鉄道車両を観光用の漁礁として設置できないものか。	海底に不要となった鉄道車両を観光用の漁礁として設置する取り組みについては35ページに記載している交流人口を増やす仕組みづくりの範疇であります。漁礁設置の目的は漁獲の増大や保護育成であり、熊本県が計画的に行っているため、新たな漁礁設置は調整が困難と考えております。	その他
6	P30 消費者との関係づくりと食・体験を通じた魅力発信 P35 交流人口を増やす仕組みづくり P36 牛深港エリアとの連携による海の回遊拠点づくり	○釣り船と連携した施策 ① 釣り船専用デッキ・受付ゾーン ・総合交流施設の一角に「釣り船発着・受付カウンター」を設置。 ・釣果の持ち込みを行い施設内の加工場で調理体験／食堂で「釣った魚を味わえる」サービス。 ・観光客でも簡単に釣り船予約可能なスマート予約システム(アプリ・Web)の導入。 ② 「釣り＋食」の一体型商品 ・地元食堂との提携した釣った魚をその場で刺身・寿司にしてくれる「釣り船直結食堂」プラン。 ・地域水産加工業者と連携したお土産にできる加工体験(干物、燻製、冷凍パック)。 ・釣り初心者・ファミリー向けに「短時間体験釣り船コース」設定。釣り船業者にまとめてアクセスできるサイト作成。 ③ イベント型施策 ・季節ごとの「釣りフェス」開催(例:鯛ラバ選手権、イカ釣り体験)。 ・釣果フォトコンテスト＋SNS連動(「#牛深釣り港」発信)。 ・釣り船＋ヘリ遊覧セットプランで都市圏富裕層をターゲット。ヘリ維持は大変かと思いますので富裕層が自家用ヘリで来てもらうところからスタート。	釣り船と連携した取り組みについては、牛深らしい体験・食が連動したコンテンツ造成に民間事業者と協働で取り組むこととしており、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	記載済

NO	該当箇所	意見の概要	市の考え方	取扱い
7	P49 地域内外の交流促進	○産島キャンプとの連携施策 ① 牛深港を「キャンプの玄関口」に ・産島キャンプ利用者向けに「牛深港発シャトル船」や「レンタル釣り具・BBQセット貸出サービス」。 ・交流施設で「キャンプ前の買い出し(鮮魚・地元野菜・地酒)」を完結できる。地元スーパーや釣具店などショップとの提携。 ② 海洋体験プログラム連携 ・牛深で漁業体験・釣りを体験し、産島でキャンプ・焚火・星空観察、という「シームレス体験コース」。竜洞山みどりの村にもヘリポートがあれば星空観察もよりできるのでは。 ・親子・教育旅行向けに「海の学びと自然体験」をパッケージ化(例:午前は釣り船を出し魚釣りし、産島でキャンプ・調理体験もしくは、施設に戻り調理体験)。 ③ プロモーション・ブランド化 ・「牛深 × 産島、砂月、茂串などシーサイドリゾート」構想: ・釣り+キャンプ+海鮮食+アクティビティ(SUP、シーカヤック) ・パンフ・Webで「海業テーマパーク」として売り出す。 ・国内外向けに「九州・熊本のブルーエコツーリズム」として砂月はじめ海のゴミ拾い体験も併せて発信することも可能。	産島キャンプをはじめ天草地域内の各地域との連携施策の取り組みについては、本事業は牛深地域の活性化を推進し、その効果を天草市全域には波及させていくことを考えておりますので、今後の取組の参考とさせていただきます。なお、プロモーション・ブランド化については今後も協議を行っていきたいと考えています。	参考
8	P52 総合交流施設等の機能	○施設全体への組み込みイメージ ・海側ゾーン:釣り船受付・発着場、テラスカフェ(釣り人の待機・休憩) ・施設内:釣果調理体験、鮮魚加工、直売・食堂 ・ヘリポート活用:都市部から釣りツアー → 釣り船 → 牛深で食事 → 牛深民宿もしくは産島、砂月、茂串などキャンプに延泊 ・回遊ルート:牛深 → 釣り船 → 産島無人島キャンプ → 翌朝牛深へ戻って観光・体験	施設全体への組み込みイメージについては、地域内の各施設との連携を行い、民間事業者と協働での取り組みを推進していきたいと考えており、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	参考

NO	該当箇所	意見の概要	市の考え方	取扱い
9	P41 台場エリアの基本方針	○期待できる効果 ・牛深港が釣り人の聖地として全国発信。 ・滞在型観光の促進として日帰り観光ではなく「2泊3日コース」が定着。 ・地元産業への波及として釣り船業者・漁師・飲食店・キャンプ場・交通業者の収益向上。 ・「海業のショーケース」として国のモデル地域として地域ブランドの強化。 ・2028年カトリック聖地巡礼の歩くツアーと組み合わせたエンターテインメントとしての釣りを入れる	期待できる効果については、本計画に記載している様々な施策に取り組むことで、いただいたと意見を含む牛深市域の活性化を図る効果を生み出していきたいと考えております	記載済